

## 富田勲さんと「歩道橋考」

シンセサイザーを使った電子音楽の第一人者で、音響作家としても世界的に知られた作曲家の富田勲さんが5日、84歳で亡くなった。

朝日新聞9日朝刊によると、80歳を超えてなお、新たな境地を開拓し続けた。「つらい」とこぼすこともあったが、「若い頃に大戦も震災（1945年、愛知・三河地震）も体験した人間の責任として、自然やいのちの本質を音楽で残しておかなければね」と歩みを止めなかった。

NHK大河ドラマの第1回「花の生涯」「新日本紀行」「きょうの料理」のテーマ曲、「ジャングル大帝」などのアニメ主題歌、「武士の一分」「母べえ」といった映画音楽の作品などが並ぶ。

私にとって富田さんのテーマ曲でいちばん心に残るのが、NHK「現代の映像」である。なかでもアーカイブスで何回も見た1969年4月18日放映「歩道橋考」は、番組冒頭のテーマ曲がなんとも言えない。

東京渋谷の歩道橋の朝から番組は始まる。テーマ曲が流れるなかで、巨大な歩道橋が映し出される。寒風が吹く渋谷駅前だ。そこにナレーターの声流れる。

長さ201メートル36センチ、高さ4.9メートルの8つの階段。1段は15センチ、36段ある。歩道橋は日本の特異な現象で、外国ではほとんど見られない。歩道橋下を走る自動車は、1時間に7000台という。

映像は東京調布市の歩道橋の現場に移る。道路を横断する人が大半であり、歩道橋はあまり利用されない。

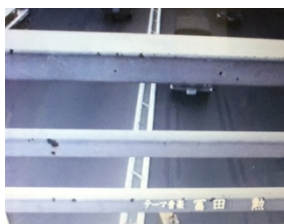
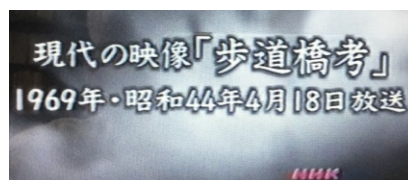
そして、大分市で歩道橋をめぐる争われた裁判を取りあげる。足の不自由な女性が、歩道橋を利用せずに道路を横断して事故にあった事件である。この女性は歩道橋を渡らないのではなく、渡れないのだ、というナレーターの声をはっきりと覚えている。

10年ほど前にレポートしたが、「現代都市問題」という講義のなかで、この番組をよく素材に使った。学生に「歩道橋考」とコメントを求めた。学生の「反応」はすこぶる良く、歩道橋についての賛否両論の意見が興味深かった。富田勲さんのテーマ曲も好評だった。やはり「映像はエイゾー」である。



**富田勲さんの主な作品** 写真は日本コロムビア提供

大河ドラマ	NHK	花の生涯	1963年
		天と地と	69年
		新・平家物語	72年
		勝海舟	74年
番組	NHK	新日本紀行	63~82年
		きょうの料理	57年~
アニメ	NHK	ジャングル大帝	65年
		リボンの騎士	67年
映画		たそがれ清兵衛	02年
		武士の一分	06年
		母べえ	08年
アルバム		月の光	74年
		惑星	76年
		火の鳥	76年
オーケストラ		イーハトーヴ交響曲	12年



(2016年5月11日)